

三環系抗うつ剤

処方箋医薬品

日本薬局方 アミトリプチリン塩酸塩錠

アミトリプチリン塩酸塩錠 10mg「サワイ」

アミトリプチリン塩酸塩錠 25mg「サワイ」

2018年 7月

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30
TEL: 0120(381)999

使用上の注意改訂のお知らせ

この度、下記のとおり使用上の注意を自主改訂致しますので、お知らせ申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

記

・改訂内容（下線部改訂又は追加箇所）

改訂後	改訂前
<p>【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 5) <u>モノアミン酸化酵素阻害剤(セレギリン塩酸塩、ラサギリンメシル酸塩)</u>を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者(「相互作用」の項参照)</p>	<p>【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 5) モノアミン酸化酵素阻害剤(セレギリン)を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者(「相互作用」の項参照)</p>

(裏面につづく)



改訂後	改訂前												
【使用上の注意】	【使用上の注意】												
3.相互作用	3.相互作用												
<p>本剤は、主に肝代謝酵素チトクロームP450 2D6 (CYP2D6)により代謝される。また、CYP3A4、CYP2C19及びCYP1A2によっても代謝されることが示されている。</p>	<p>本剤は、主に肝代謝酵素チトクロームP450 2D6 (CYP2D6)により代謝される。また、CYP3A4、CYP2C19及びCYP1A2によっても代謝されることが示されている。</p>												
1)併用禁忌(併用しないこと)	1)併用禁忌(併用しないこと)												
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="132 528 328 562">薬剤名等</th> <th data-bbox="333 528 549 562">臨床症状・措置方法</th> <th data-bbox="553 528 743 562">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="132 568 328 902"> モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー) ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト) </td> <td data-bbox="333 568 549 1229"> 発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また本剤からモノアミン酸化酵素阻害剤に切りかえるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。 </td> <td data-bbox="553 568 743 1229"> <u>詳細は不明であるが、相加・相乗作用によると考えられる。</u> </td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー) ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト)	発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また本剤からモノアミン酸化酵素阻害剤に切りかえるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。	<u>詳細は不明であるが、相加・相乗作用によると考えられる。</u>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="828 528 1024 562">薬剤名等</th> <th data-bbox="1029 528 1244 562">臨床症状・措置方法</th> <th data-bbox="1249 528 1439 562">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="828 568 1024 712"> モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン (エフピー) </td> <td data-bbox="1029 568 1244 1229"> 発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また本剤からモノアミン酸化酵素阻害剤に切りかえるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。 </td> <td data-bbox="1249 568 1439 1229"> モノアミン酸化酵素阻害剤は本剤の代謝を阻害する。また、本剤は活性アミンのシナプス内への取り込みを阻害する。 </td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン (エフピー)	発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また本剤からモノアミン酸化酵素阻害剤に切りかえるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。	モノアミン酸化酵素阻害剤は本剤の代謝を阻害する。また、本剤は活性アミンのシナプス内への取り込みを阻害する。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー) ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト)	発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また本剤からモノアミン酸化酵素阻害剤に切りかえるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。	<u>詳細は不明であるが、相加・相乗作用によると考えられる。</u>											
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン (エフピー)	発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また本剤からモノアミン酸化酵素阻害剤に切りかえるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。	モノアミン酸化酵素阻害剤は本剤の代謝を阻害する。また、本剤は活性アミンのシナプス内への取り込みを阻害する。											